

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	グラン・シード西岡ルーム 西岡クラス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性に合わせた個別支援計画に基づく、きめ細やかな療育プログラムの提供。	職員間で毎日ミーティングを行い、子どもたちの小さな変化や情報を迅速に共有している。	5領域を意識し子どもたちの興味関心をさらに引き出す療育プログラムを提供していく。
2	保護者とのこまめなコミュニケーション(連絡帳や送迎時の対話)を通じた、家庭との連携の強さ。	保護者向けに定期的な面談やSNSを活用し、透明性の高い運営を心がけている。	子どもたちの社会性を育むため、地域関連機関とのイベントを企画・実施する。
3	5領域を意識した療育に取り組むとともに運動療育(サッカー)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)に重きを置いた活動の実施。	子どもが安心して楽しく過ごせるよう、環境づくりをしている。	外部研修への参加を奨励し、職員の専門性(発達支援に関する知識やスキル)を向上させる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門資格を持つスタッフ(理学療法士や言語聴覚士など)の配置が十分ではなく、より高度な専門的ニーズへの対応に限界がある場合がある。	福祉人材の全体的な不足により、専門スタッフの採用が難航しているため。	より多くの求人機会や媒体利用により積極的な人材確保を強化し魅力ある職場づくりに取り組む。
2	施設内が広く開放的なスペースを確保できている反面、子どもによっては視覚的な刺激が多くなり気が散りやすかったり、個別活動への集中が途切れがちになることがある。	活動スペースが広いため、遊びの空間と集中して課題に取り組む空間の境界線が曖昧になりやすいため。	パーティションや棚などを活用して活動エリアを視覚的に明確に区切り(構造化)、子どもが落ち着いて活動に集中できる環境づくりをさらに工夫する。
3	職員の業務負担(記録業務や事務作業)が大きく、子どもと向き合う時間以外の負担が生じている。	ICT化(デジタルツールでの記録管理等)が完全には進んでおらず、アナログな事務作業が一部残っているため。	療育記録や事務・請求業務のシステム導入により業務効率化を図り、子どもと向き合う時間や療育準備の時間を確保する。